

(福) ケアハウス信愛館

今年は思いのほか早く桜の満開を迎え、もう散り初めです。特に寒かった冬もやっと終わり、膨らみ始めた桜の蕾を目にし、鶯の鳴き声を耳にした時のうれしさは格別でした。

入居者皆様の外出機会も増え、春を満喫されています。

◆三月一日(木) 社会福祉法人近江兄弟

社地塩会の評議員会が開催されました。先の理事会で話し合われた内容が報告され承認されました。その後、入居者の高齢化に伴う対策について、質問や意見があり、今後の施設運営について大いに参考になる活発な議論がなされました。

◆三月二日(金) 「お餅を食べる会」が午後からありました。「おろし餅」と信愛館では初めての「ずんだ餅」を食べさせていただきました。東北地



方ではおなじみのずんだ餡は、枝豆から作られています。けれども関西ではあまり馴染みがなく、入居者の中には、言葉すら初めての方もあり、皆様興味津々で食堂に来られました。なぜ今回は「ずんだ餅」になったのかそのいきさつですが、入居者の鶴谷頼子様は仙台が故郷とのことで、ずんだ餡がどのような味かお聞きしたところ、お母様がこの三月で百十

四歳になられ、お世話をされている妹さんからお祝いの意味もこめて皆様でぜひにと本場の餡を沢山贈ってくださいました。初めての味に皆様は口々に「おいしい、おいしい」とニコニコ顔。東北の味を出掛けることなく味わうことができ、鶴谷様、妹様お二人に感謝すると共に、お母様の長寿にもお祝い申し上げます。



◆三月二十二日(木) 「絵本を読む会」がありました。これまで何度か開いていますが、絵本といえども子供のためだけのものではなく、大人にも楽しめる作品は多くあり、鶴谷頼子様の蔵書から選んでいただいた絵本を鑑賞しました。多くの入居者が参加されま

したが、それぞれが読みたい絵本を手に取り、挿絵を主に選ばれる方、またストーリーに興味を持つ方、子供や孫と読んだと懐かしくて手にされる方、動機は様々ですが皆様の真剣な眼差しに絵本の持つ力にあらためて驚かされます。この会は鶴谷様の経験に裏打ちされた的確なコメントがあつてこそ皆様を惹き付ける会になつているのでしよう。今後回数を重ねることにより皆様の心に何か変化が起るかもしれません。